

大芝高原将来ビジョン（素案）

2022 年 月

南 箕 輪 村

コンセプト 大芝高原 いやしの木々
いつも いてる

幅広い世代が楽しめる
誰でも 一日中 遊べる
自然の美しい 森の美しい
今のまま 変わらない
近くて 気軽に行ける憩いの場所
大芝高原は いつも
村の人たちと 共にある
そんな場所 でありたいです



特集
2

10年後の 大芝高原未来図

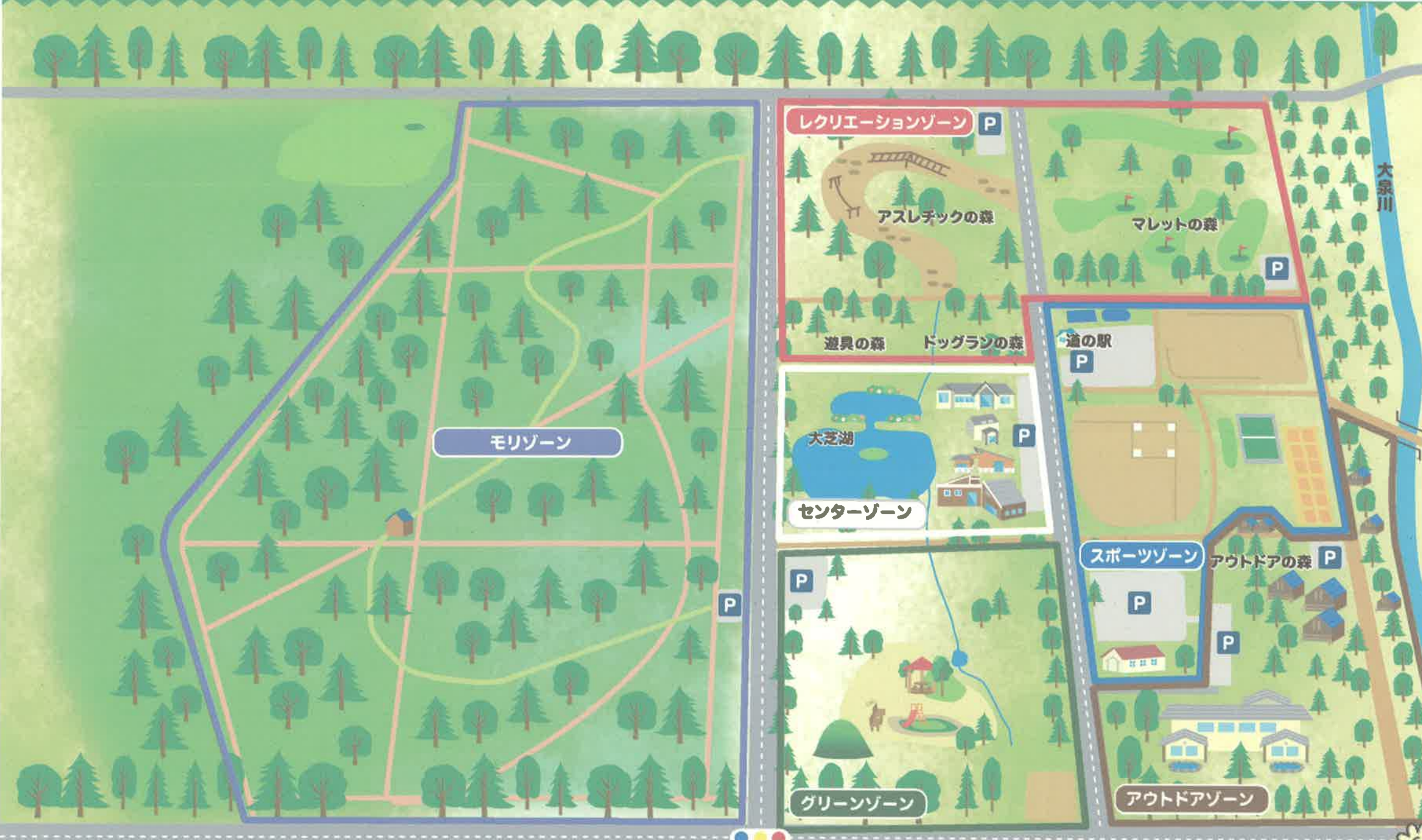
大芝高原 将来ビジョン

を策定中です

村の皆さんのなかに、「大芝高原には行ったことがない」という方がいますか？
大芝高原には道の駅、温泉、テニスコートなどのスポーツ施設、癒しの森林セラピーロードなど、さまざまな施設があります。身近で誰もが気軽に利用できる森の公園、それが大芝高原です。昭和47年にスポーツ公園としての開発が始まり、野球場や陸上競技場を整備し、その後芝生の広場、温泉、森林セラピーロード

ドと、50年の間、少しずつ整備し現在の公園になりました。
みんなの大芝高原を、10年後どうしていくのか。そのグランデデザインを示す「大芝高原将来ビジョン」についてその考えをお伝えしますのでご意見をお寄せください。

村の公式キャラクターまっくんも最初は大芝高原のイメージキャラクターでした。



ゾーニング

大芝高原の広さは、都市公園大芝公園エリアとみんなの森のエリアをあわせると85ヘクタールもあります。(都市公園大芝公園エリアは東京ディズニーランド®と同じ広さ(51ヘクタール)です。)とても広いのでゾーンごとコンセプトを分けて利活用を考えました。

モリゾーン

モリゾーンは、癒しや健康増進を目的に、誰もが利用できる、森林セラピーロードにより形成されるゾーンです。松枯れによりアカマツが今後10年間で壊滅的な状況になる可能性を否定できないことから、用材として活用する発想の転換と樹種転換などが求められています。

アウトドアゾーン

アウトドアゾーンは、癒しやレジャーを目的に、誰もが利用できるアウトドア施設や温泉施設により形成されるゾーンです。キャンプ需要に対応した改修と温泉施設の適正な維持管理などが求められています。

スポーツゾーン

スポーツゾーンは、交流や健康増進を目的に、地域住民が主に利用できる多くのスポーツ施設により形成されるゾーンです。施設の適正な維持管理と廃業施設の跡地の利活用などが求められています。

センターゾーン

センターゾーンは、交流や飲食、癒しを目的に、誰もが利用できる、多くの観光施設により形成されるゾーンです。道の駅としての整備と大芝荘の利活用などが求められています。

レクリエーションゾーン

レクリエーションゾーンは交流や健康増進を目的に、誰もが利用できるマレットゴルフ場やアスレチックコース、遊具により形成されるゾーンです。マレットゴルフ場の適正な運営とアスレチックコースおよび遊具の改修などが求められています。

グリーンゾーン

グリーンゾーンは、それぞれが思い思いに余暇を過ごすことを目的に、誰もが利用できる広い芝生地と水の広場で形成されるゾーンです。水の広場の清浄と犬の排泄物対策などが求められています。



村に宿泊する観光客が少なく、30年経過した大芝荘の利活用が課題となっています。適切な委託先が見つからない場合は、取り壊しも一つの選択肢として考えています。その場合、遊具やドッグランの森、大芝湖へのアクセスを改善するため、跡地を駐車場にすることを検討していきます。

センターゾーン

こんなゾーンに

広い公園の真ん中にあるゾーンです。既存の施設(湖も含める)の有効活用につながる整備など、リニューアルをしていきます。



水の広場

NEW



現在の水の広場に噴水デッキなどの設置を検討していきます。

「大芝高原内に子どもたちが水と親しめる遊び場がほしい」という要望があります。



築山



遊具の撤去により、現在は、築山のみが存在しています。芝ソリの利用など、あまり費用をかけない形での活用を検討していきます。

グリーンゾーン

こんなゾーンに

広い芝生地で、家族、友人、あるいは一人でも思い思いに余暇を過ごしてもらえるゾーンにします。

このゾーンはペットを連れた人も、小さな子どもも利用しています。リードにつながれていない飼い犬がいたり、芝生内に糞が散見されたり、安全や衛生上の問題が起きています。そこで、人と犬がそれぞれ気持ちよく、安全に楽しく過ごせるように、レクリエーションゾーンにドッグランを新たに設置し、利用者の棲み分けを進めることで改善することを検討していきます。

アスレチックの森

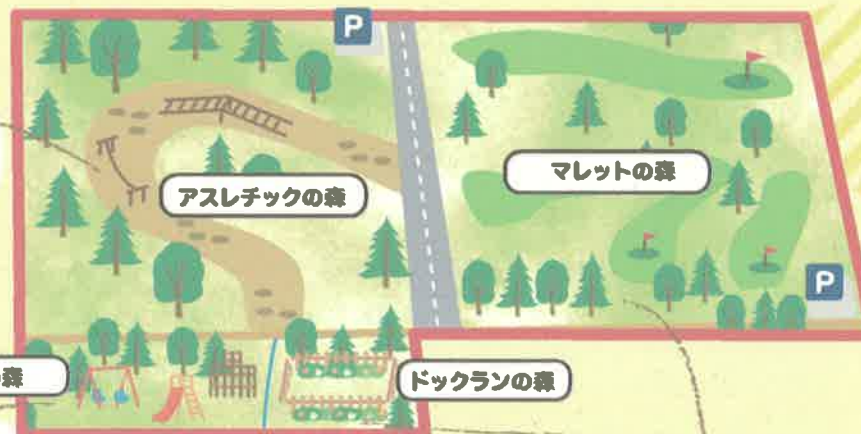
コースとして成り立つよう、アスレチックを追加していきます。整備にあたっては、大芝の間伐材を利用します。



遊具の森

NEW

障がいのある子もない子も一緒になって安全に遊べる(インクルーシブ)大型遊具を設置し、多くの子どもたちが安全に遊べる広場を拡張整備することを検討していきます。アスレチックの森と導線をつなぐ形で整備するほか、車いすで通ることができる歩道の整備を行います。



レクリエーションゾーン

こんなゾーンに

林の中で、年代を問わず、体を使って思い切り遊べるゾーンにします。

今あるアスレチックなどの施設を拡充していきます。

ドッグランの森

NEW

人も犬も気持ちよく楽しく、安全に公園を利用できるようにするため、新たにドッグランの設置を検討していきます。他所のドッグランとの差別化を図るため、樹木の伐採は最低限とし、ドッグランの森として整備します。



マレットの森

村内外からの利用者が多い人気の施設です。引き続き、保守整備を行っています。

マレットゴルフは高齢者から子どもまで広く親しめるスポーツです。年間利用するシニア世代が子どもたちにマレットを教えるなど世代間交流のできるイベントを企画し、多くの人が楽しむことのできる施設へと整備していきます。



アウトドアゾーン

こんなゾーンに

森の中に、キャンプ場やコテージが点在し、アウトドアが楽しめるゾーンです。一体的にアウトドアの森として整備を強化していきます。



大芝の湯

入場料を無料、温泉利用のみ有料とし、誰もがゆったりと過ごし、自由に過ごせる暖かい空間を提供していきます。入場しやすいように南西の林の駐車場整備を検討していきます。



オートキャンプ場

コロナ禍で密にならないレジャーとして、キャンプ需要が増えています。人気の施設ですが、設置から30年経過しており、今の利用者のニーズに合った施設への改修が必要です。人気のある「グランピング」ですが、大芝高原のオートキャンプ場は、基本的には、質沢なイメージのグランピング施設を新たに設置するのではなく、流行が終わっても、変わらずキャンプを楽しむ、本物のアウトドア指向の利用客が、さらにリピーターとなるように、現施設の改修拡充整備を行っていきます。ただし、繁忙期は利用客のニーズに応えキッチンカーの配置、料理や食材、飲料の提供を行い収益増加につながるようなサービスの提供を検討していきます。

また、現在このゾーンで活用されていない場所をフリーキャンプサイトやキャンピングカーのキャンプサイトに整備して活用していきます。

ふれあいプラザ

大芝の湯に併設された温水歩行浴プール施設です。インストラクターによる運動講座の実施など施設の周知に努め、利用促進を図るよう検討していきます。



森のコテージ・高原のコテージ

グランピングもできるコテージとしてサービスを充実して利用客の増加につなげていきます。



プールの跡地利用

プールの跡地にいくつかのスポーツ施設整備を検討しています。

スケートボードパーク^や

スケートボードは若者に人気のスポーツで、住民などを対象にしたアンケート調査でも、スケートボードのできる環境の整備を望む声が多くあります。

既存のプール施設の形状を大きく変えることなく設置できるスケートボードパークの整備を検討していきます。



体育館^{など}

トレーニングジム、学校交流拠点、カフェ、管理事務所が併設された複合的施設の体育館の整備を検討していきます。



野球場

バックネット、スコアボードの改修を検討していきます。



陸上競技場

芝生化を検討していきます。



バスケットボール3on3コート

道の駅駐車場と陸上競技場の間のデッドスペースを活用してバスケットボールのコートの整備を検討していきます。



テニスコート・多目的コート

クレイコート6面の人工芝化を検討していきます。



スポーツゾーン

こんなゾーンに

経年劣化した施設を機能強化のためのリニューアルをし、運動公園としての大芝高原の魅力アップを図ります。

新しいスポーツや村が応援しているスポーツのための施設を新規に整備し、大芝高原の魅力アップを図ります。

モリゾーン

こんなゾーンに

森林セラピーロード認定の森に適した森の整備を継続して行います。

他所にない、森を活用する癒しや健康増進のための仕組みづくりを進めます。

静寂のなかで、癒しを得られる森づくりを進めます。
誰もが一人でも安心してセラピーロードを利用できるよう、明るい森づくりを進めます。

みんなの森

みんなの森には、認定を受けた3コースのセラピーロードが整備されています。利用者は、この森の静寂を好んでいるので、新しく集客するための施設整備はしません。基本的には、森林セラピーロード認定基準に適した整備を継続して進めます。利用者の中には、「森のなかは怖い」という声もあることから、静かながら人の目が通る、光が入って明るい森づくりを心掛けた整備を続けます。森林セラピーの癒し、病気の予防の効果はウォーキングだけではなく、森の中で過ごすことで現れるということです。赤松の小屋を中心に、ヨガのできるスペースや健康器具の設置など、ウォーキング以外でみんなの森を利用できる施設の整備を検討します。



赤松の小屋



森のなかで寝転がってセラピー

「大芝高原将来ビジョン」について
皆さんのご意見をお寄せください。

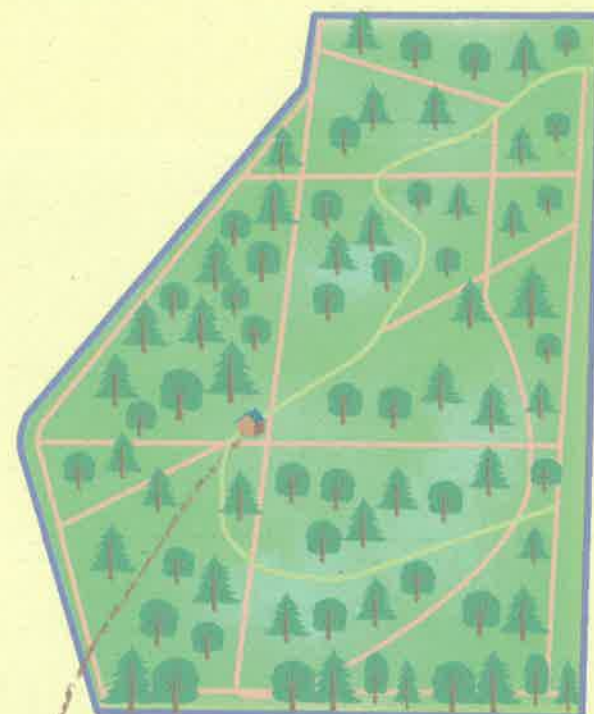
※アンケート回収ボックスは役場ホールに置きます。

地域づくり推進課 特命担当室
☎98-6640

今後皆さんからのご意見やむらづくり委員会のご意見をもとにビジョンをまとめていきます。



ながの電子申請からも
ご意見を
お寄せいただけます



植林

未来の子どもたちに、大芝の森の木をつないでいくために、
村政150周年を記念とし、200周年に向けた植林を始めます。



大芝の森の130年

桃

十先生の説得や熱心な姿に、強く反対していた人たちもついにその大切さを理解し、一緒に植林をするようになりました。こうして植林した木は何万本にもなり、原っぱだった大芝は、大きな平地林になっていきました。



2

昭

和56年4月、大芝の村有林で火災が発生。焼失面積は9ヘクタール、17,000本もの木が燃えてしまいました。



3

再

びアカマツやヒノキの植林を開始。中学生も学校林作業を続け、大芝の森づくりは引き継がれていきました。



中学生の植林作業の様子

4

明

治28年 南箕輪尋常小学校（現南箕輪村小学校）に赴任した福澤桃十校長先生は、当時貧しかった村の、学校建設の資材のために必要な1万本のコナラの木の植林を始めました。これが大芝高原の森の始まりです。村の「まぐさば」※として大芝の原っぱを利用していた村の人たちは、この植林に大反対しました。まぐさばがなくなると、田畑の肥料や、家畜の餌にしていた草を採れなくなるからでした。



※馬などの餌・田畑の肥料にする草を刈ることのできる共有の原っぱ

か

つて、植林された木は材木としてだけではなく、枝葉は薪としても利用されていました。薪を得るために村の人たちが入って大芝の森は自然と整備されていました。しかし、時代とともにエネルギーとしての薪が必要とされなくなりました。

平成17年森林セラピーロードが整備され、今の大芝の森は、健康の森として活用されています。



5

大

芝の森の木の多くはアカマツです。村では、松くい虫被害を防ぐために平成18年から薬剤の樹幹注入を行ってアカマツの保全を行ってききましたが、平成29年に、ついに大芝の森の中に松くい虫被害が発生しました。



松枯れの広がるイメージ
資料提供：長野県林務部

樹幹注入もアカマツの生理的限界を迎えており、調査により、今後10年間で大芝の森のアカマツは壊滅的な状況になることもわかりました。

6

松くい虫被害が広がるのを
待ってはられません。
先人の想いを引き継ぎ
アカマツは用材として活用で
きるうちに伐採します。